



“心豊かに
笑顔あふれる”

青森県
総合社会教育センター

響

所報〈ひびき〉

No.
114

令和元年 7月4日

2030年の社会教育・生涯学習に向けて ～Society5.0の到来と対応～



青森県総合社会教育センター 所長 児玉 政光

令和の時代を迎え、人工知能（AI）やビッグデータ、IoT等の技術革新が劇的に進んでいる。今後は、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会として、超スマート社会（Society5.0）が到来し、10年後には多くの職業がAI等に代替されるとの背筋が寒くなるような予測もされる。

また、医療技術の発達等により健康寿命は延伸し、人生100年時代が到来し、教育→仕事→老後という単線型の人生から生涯において複数の仕事に携わることや学び直しなどマルチステージの人生への変化も予測されている。

一方、国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」においては「誰一人取り残さない」をテーマに掲げており、この理念は昨年12月に策定された県基本計画「選ばれる青森への挑戦」においても踏まえることとされている。

さらに、様々な意味での社会的少数者や多様な価値観を持つ者との協働など、多様な働き方を受容するダイバーシティの考え方も広まりつつある。

このような中、昨年12月の中央教育審議会の答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、年齢・性別・障害の有無や国籍・所得等にかかわらず、孤立しがちな人や生きづらさを抱えた人を含め、すべての人が共に認めあい温かい関係性の中で自らを高めながら暮らすことのできる社会を実現するため、社会教育は大きな役割を果たしうるとされている。

また、学校教育においても、昨年10月に告示された高等学校新学習指導要領において子供たちが予測困難な社会の変化に主体的に関わり、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、主体的・対話的で深い学びを柱とした授業改善を進められることとなった。

県基本計画には、2030年の青森県の目指す姿が示されているが、人口が減少しても安心して暮らしていける持続可能な青森県づくりのためには、青森県民一人ひとりの学びとつながり、そのための社会教育・生涯学習はその形を変えながらも大きな役割が求められるものと考えている。

青森県総合社会教育センター

検索

〒030-0111 青森市荒川字藤戸119-7 TEL 017-739-1252 FAX 017-739-1279 <http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/>

家庭教育に関する3つの事業のお知らせ

1 「家庭教育支援『出前講座』」

～当センター制作の動画（ネットトラブル、子ども食堂、発達障がいについて等々、内容は多数）を観ながら、子育てについて一緒に考えましょう。～

対象 幼稚園・保育所（園）・小学校・中学校等
 申込方法 ご希望の日程を下記までご連絡下さい。
 TEL017-739-1270（教育活動支援課）
 ・講座内容や日程調整など、詳細について確認します。



2 「すこやかほっとライン」 電話相談 017-739-0101

～子育てで困ったら、ひとりで悩まず、まずは電話かメールで相談！～

対象 乳幼児から高校生までの保護者や家族
 電話相談 毎週月・水・木曜日 13:00～16:00（祝日・年末年始を除く）
 メール相談 24時間受付 **パソコン** <http://kosodate-a.net> **携帯** <http://kosodate-a.net/i>

3 「あおもり家庭教育アドバイザー派遣」

～子育てあるあるエピソードを通じ、家庭教育についてアドバイザーと共に考えてみましょう～

対象 PTA、学校、市町村、市町村教育委員会、公民館、幼稚園、保育所、子育て・家庭教育支援団体等が行う参加予定者が5名以上の家庭教育支援に関する研修会、学習会、講座等
 申込方法 派遣希望団体は、所在する市町村教育委員会を通じて、派遣申込書を県総合社会教育センターに提出してください。（様式は「あおもり親学プログラム」で検索！）

我が社は学校教育サポーター



県内の各地区にもプラットフォームがあり、地域の企業等を活用した様々な学習活動を応援してくれます。是非ご活用ください。

「学校に企業等の方をゲストティーチャーとして招きたい。」

「職場見学やインターンシップの受け入れ先を探したい。」

そんな時、青森県教育支援プラットフォーム「我が社は学校教育サポーター」の登録企業等リストをご覧ください。教育支援プラットフォームは子どもたちのキャリア教育を応援する仕組みです。「我が社は学校教育サポーター」登録企業等数は、令和元年5月1日現在で839社です。

【企業等の探し方】

「我が社は学校教育サポーター」と検索します。



リンク先の「我が社は学校教育サポーター検索サイト」（右掲）
 または「登録企業一覧表」から希望にあう企業を探します。



企業等が決まったら、「紹介連絡票」に必要事項を記入し、FAXで青森県総合社会教育センターに送信してください。仲介いたします。（初めから、企業と直接連絡を取っていただく場合もあります。）

※ 詳しくは「我が社は学校教育サポーター」のホームページ

<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/platform-list.html> をご覧ください。



問い合わせ 教育活動支援課 TEL 017-739-1270

2019年度青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業



青少年の自主的な活動を支援します！

◎高校生・大学生・専門学校生が自主的に運営する団体のうち、「社会参加活動」「創作活動」を行っている団体を、総合社会教育センターが「モデル団体」に指定し、活動推進のための研究事業を通じて、活動支援を行っています。ボランティア活動や地域活動、バンド・ダンスやアート制作等の活動をしている非営利の団体があてはまります。

☆支援の内容は、以下の通り様々です。

- ①センターの各研修室（ホール施設・スタジオ施設含む）の使用料の免除
- ②情報発信用の掲示板や、映像処理・Wi-Fi使用等が可能な教材開発室の提供
- ③発表機会の提供（生涯学習フェア2019等）やHP等での活動紹介
- ④社会教育主事等の専門職員による情報提供とアドバイス、他団体との連絡調整
- ⑤イベント開催時のセンター協力名義使用の承認 等

♪平成30年度は、これらの支援を活用し、大学生の団体が主催する異年齢交流イベントがセンター大研修室（ホール施設）で行われました。活用方法はまだまだあります！

「モデル団体」指定の面接審査があります。申込み等詳細は、当センターHPをご覧ください。
http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/kouza_model.html

『高校生スキルアッププログラム』参加者を募集中！

高校生の学校外学修を 応援します！

在学期間中に学校外学修で学び、合計20単位以上を取得した高校生は、当センター所長が認定する「奨励証」が授与されます。

さらに、学習を続け、合計35単位以上を取得した高校生には、県教育委員会教育長から「認定証」が授与されます。

昨年度は同じ志を持った県内高校生 2,700名が様々な活動を県内各地で行っています。

連携機関のみなさん
 高校生のために講座やボランティア等
 各種情報の提供をお願いします。

情報提供・問い合わせ 育成研修課 TEL 017-739-1253

VOL. 6
八戸市

魅力ある講座の実践紹介！

「We Love 柏崎！」

今回は、小学校と連携した活動を展開している八戸市立柏崎公民館の取組についてお話を伺いました。特に、地域と学校が協力して子どもたちを育てていく「地域学校協働活動」について、先駆的な取組をすることとなった経緯について御紹介します。



公民館も「We」へ仲間入り

八戸市では、中学校区にほぼ一つずつ公民館が設置されており、柏崎公民館は八戸市立第三中学校学区（類家・柏崎地区）にあります。同中学校学区内の小学校は八戸市立柏崎小学校だけですので、この地区には、小学校・中学校・公民館が1つずつあることとなります。

柏崎小学校は、平成20年度に八戸市教育委員会から「地域密着型教育推進事業モデル校」に指定され、学校・家庭・地域が連携・協同して、地域の子どもたちを共に育てる仕組み作りを進める取組を推進していました。それまでは、「I Love 柏崎」を合い言葉にしていたものを、PTAとも連携し「We Love 柏崎」という合い言葉に変化させました。

それを受けて公民館は自らが、地域コミュニティの核となるべく模索していたことから、それまで行っていた「公民館活動教室」「高齢者教室」などの一連の講座の一部に、横断的に「We Love 柏崎」のネーミングもつけることとしました。つまり、「地域を知る講座」「地域人材を活用している講座」「地域の子どもたちを育てる活動」などは、「公民館活動教室」等であり、また「We Love 柏崎」でもある、ということです。その名に当てはまる講座は、その時点で数多くありましたが、小学校と密に連携するようになると、小学校の保護者が体操講座の講師になるなど、新たな「We Love 柏崎」講座が誕生するようになりました。



地域の核としての活動が充実

柏崎小学校学校支援コーディネーターが、同校内で行っていた「夏休み学習会」（対象：小学生下学年、時期：夏休みのはじめ数日間）を平成23年は、同校新築移転のため柏崎公民館で行うこととなりました。この際、夏休みの課題だけでなく、もっと組織的な学習を準備することになり、公民館側からも学習会の中で出前講座をいくつか行うこととなりました。それ以後、「学習会」が移転後の小学校で行われるようになった現在も継続しています。出前講座は「音読教室」（当時の館長が継続）、「読み聞かせ」（プロの役者さんや継続して読み聞かせを行っている方による）、「なぞかけ教室」（現館長による）などがあります。講師たちは小学生たちともすっかり打ち解け、公民館の講座へ小学生が参加することも増えてきたようです。また出前講座は、この学習会に来ているボランティアの高校生に、公民館の存在感をアピールできる機会ともなっています。

成果としては、公民館が地域の核として主体的に活動することにつながっていることが挙げられます。以前から、町内会、防犯協会、交通安全協会などは、公民館の運営とも連携がありましたが、小学校との連携が密になることで、ますます地域の核としての役割が明確になり、活動が充実してきたことが感じられます。今後は、同じ地域にある中学校や県立の盲学校・聾学校とのより深い連携も視野に、ますます地域社会の絆を深められるように進めていきたいとのことでした。

【編集後記】 小学生が講座へ参加する数が増えつつあることなど、単に公民館が小学校を助けているだけでなく、公民館の活動そして地域の活動にも良い影響が現れていることが注目点だと思います。（TK）



《青森県総合社会教育センターシンボルマーク》

人づくりの拠点として、県民の生涯にわたる学習の輪が、和を持って限りなく広がっていくことを願いとしています。家庭、学校、地域社会が一体となる姿を表現するとともに、色を緑色とし、伸びゆく緑豊かな青森県を表しています。